

資料7

# 明るい社会保障のための 「データ活用」

株式会社ミナケア 代表取締役  
山本 雄士

データ解析とその「見える化」ではなく、  
解析すべき課題の設定と解決策の「仕組み化」が最重要

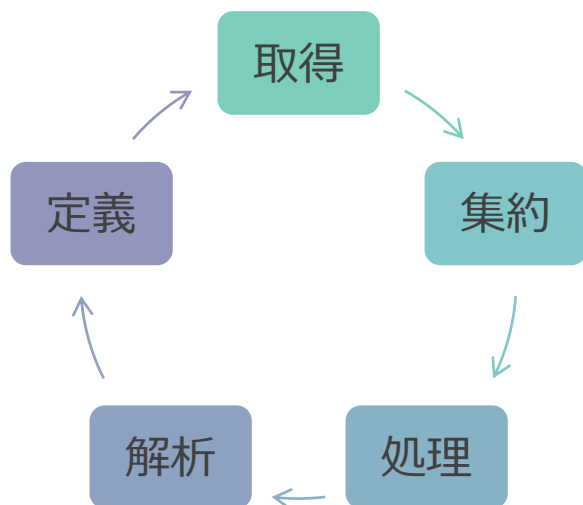
データの連結・データベースの構築ではなく、  
活用に適したデータの定義と妥当性の担保が先決

データ取得の業務化ではなく、  
データ活用をしやすい業務手順の設計と実践が必須

入手

処理

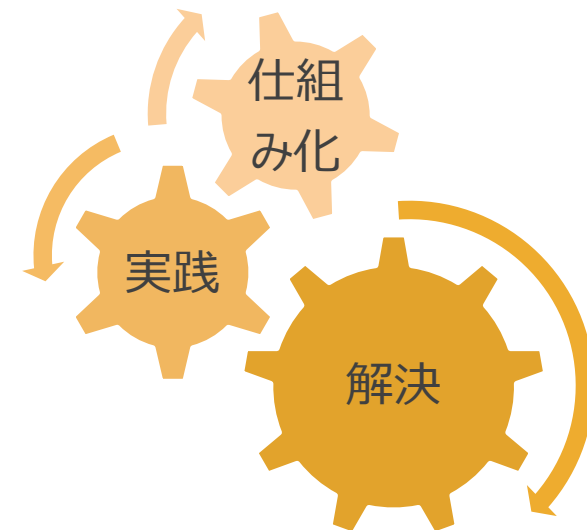
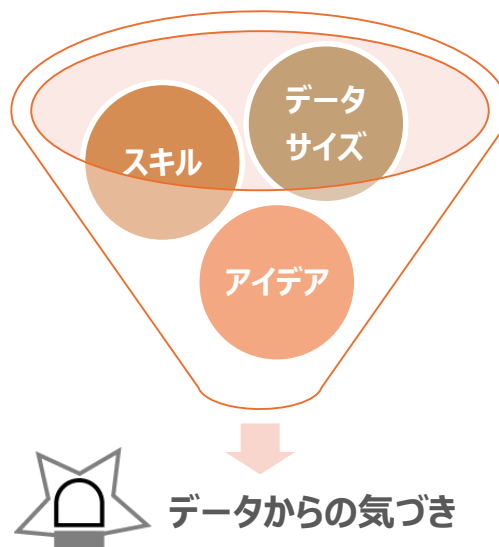
活用



 ビッグデータという果実

活用するデータの「バリデーション  
(妥当性の検証)」が必要

データよりも、解析スキルよりも、  
何に使うか、何に答えるかの  
アイデアが重要



 データ活用のインパクト

実際の解決には、その先に「仕組み化  
(業務設計)」と実践というプロセスが  
必須

データ分析で課題を把握し、企業の主体的な取り組みを後押しするための仕組み化を支援

## 事例の概要

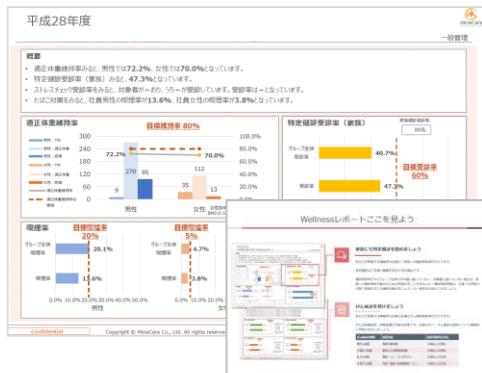
事業所別の分析によって、各事業所/地域の課題を明らかにした上で、各事業所の経営層や担当者を対象に、主体的に施策に取り組んでいただくためのワークショップで目標設定をサポート。事業所の方々にワークショップ後もやる気を持ち続けていただくための仕組み化を支援。

## 提供したサービス

MinaCare Insight  
データ解析サービス



MinaCare Drive  
健康経営・データヘルス実践支援サービス



### 事業所別分析

事業所ごとの課題を明確にするための事業所別の分析シートを作成。分析結果の解説とアクションのための、「読み方シート」を作成。

### ワークショップの実施

事業所の経営層や健康づくり担当者を対象に、課題意識を持ち、実践に移していただくためのワークショップを事業主、健保とともに企画して実施。



### 一部施策の実施支援

ワークショップなどで決定した施策を進めていくため、本社 + 健保 ⇄ 事業所間で共有できる全体スケジュールの管理や、定期mtgの開催、各種施策に必要な制作物の作成、セミナーの企画等を支援。



## 保険者育成の観点から


- 明るい社会保障における予防・健康づくりに向けた保険者の役割を明らかにした上で、その達成に向けた業務の再検討、再認識をしてもらう
- 予防や健康づくりの成果に応じた評価、報酬制度を重点化する

## 保険者保護の観点から

- データ活用といっても見える化の乱立や、文書作成やデータ取得などの業務負荷で現場を混乱・停滞させない
- 専門的なノウハウを構築・共有する場～市場を振興する

## 市場創出～コレクティブインパクトの観点から

- データの活用やそれによる事業者の役割（競争による改善）、政策決定の役割（共創による整備）に戦略性、整合性を持たせる

- 
- 画一的な作業指示ではなく、目指すゴールとその達成度に応じた保険者評価の仕組みを作ることで、その実現方法や「仕組み化」を「現場で考えて」もらう
  - データの流通と活用を向上するために、たとえばデータ定義の更新、マスタの整備、データ活用でやって良いことといけないことの明確化を進める



# おせっかいな医療、始めました。

今までは、データ解析で「なるほど」を追求してきました。

「なるほど」だけでは病気を減らせないことに気づきました。

これからは、「できた」と言われるまで伴走し

病気にさせない医療を実現します。

投資型医療<sup>®</sup>のミナケア